

モラリティ・インフラースメント推進事業とは…

モラリティ・インフラースメント推進事業は、学校・家庭・地域が協力して、思いやりや感謝の心などの子どもたちの道徳性を高めていく働きかけを意図的・計画的に行っていくとする事業です。道徳性が高まっていくことで、「自分を伸ばし、他人を思いやり、よりよい社会をつくっていく」とする心もち、そして行動できる人」に成長していけるよう願っています。(モラリティ=道徳性、インフラースメント=向上)

子どもたちの道徳性を高めていく中で、確かな自立へ導き、社会(公共)に貢献できる人づくりを社会全体で協働して取り組んでいくとする事業で、始良市子育て基本条例を具体化するものです。



取組の重点

学校における道徳教育をもっと充実・推進しよう。
学校・家庭・地域が協働して子どもたちの道徳性を育成しよう。



学校での取組を充実・推進させるために…

指導力を高める研修会の実施
学級経営研修会
道徳教育推進教師研修会

「道徳の時間」を充実させる指導方法や資料の開発
「道徳の時間」指導法開発委員会

学校・家庭・地域が協働して
子どもたちの道徳性を高めるために…

学校・家庭・地域が、協働して子どもの道徳性を育むために、どのような取組が必要かを考える協議会の設置

モラリティ・インフラースメント・ミーティング(MIM)

協働

研究実践校による家庭・地域と協働した取組の推進

道徳性を高めるための、学校・家庭・地域と協働した取組の公開
家庭・地域への「道徳の時間」の公開
学校・家庭・地域による子どもの道徳性についての協議
小学校は毎年度1校ずつ、中学校は隔年で1校を指定

- ・道徳性を養う体験の場や環境づくりへの協議
- ・家庭への啓発活動の充実

第1次提言の作成・配布
MI通信の作成・配布



もうお読みいただけましたか？

MIMでは昨年度末、「始良っ子の道徳性を育むために(第1次提言)」と、それをわかりやすくまとめた「第1次提言リーフレット」を作成し、各小・中学校及び保護者(保護者にはリーフレットのみ)に配布いたしました。

この第1次提言は、子どもたちの道徳性を育むために大切にしてもらいたい4つの重点「あいさつ」「思いやり」「きまりを大切にする」「ふるさとを大切にする」について、基本的な考えを述べています。始良市全域でこれらの資料を活用し、子どもたちの道徳性を育むことができたと思います。

①「あいさつ」でつながるわたしたち

おはよう
ございます!

おはよう!
いってらっしゃい。

北山小

できるようになりたいあいさつ～親子で考えよう～



「ありがとう」は、
どんなあいさつ
にしよう。



あいさつを3つ決めて実行
しよう。できたら色をぬり
ましょう。

- 学年 複式第1・2学年
- 内容項目 2- (1) 礼儀
- 資料名 「たびに出て」
(わたしたちの道徳)

- 具体的な働きかけ —
- 学校で取り組んでいる「オアシス運動」を取り上げ、いろいろな「あいさつ」があることに気付かせた。
- できるようになりたいあいさつについて、家庭でも実践できるように、親子で考えるようにした。

— 子どもの反応 —

- あいさつしなくて当たり前と考えていたが、あいさつがないと、「元気がでない。楽しくない。なんか変だ。」とあいさつのよさに気づくことができた。
- あいさつすることで、みんなが気持ちよくなり、笑顔が増えることに気づくことができた。

道徳教育に関する年間目標を達成するための取組 ～道徳コーナーの設置～

道徳教育に
関する年間目標
に合わせた
テーマを記入。

日記や行事
後の感想、道
徳の授業の結
末に記入した
振り返り等。
(学校生活に
関するもの)

具体的な取組

本校では、学校における指導計画に沿って、道徳教育に関する年間目標と努力点(具体策)を学級・学年PTAで話し合い、設定している。道徳教育に関する年間目標の意識の継続を図るため、各学級に道徳コーナーを設置した。

感想

各学級に道徳コーナーを設置したことで、道徳教育に関する年間目標に対する意識の継続を図ることができた。どんな文章を書いたのか、子どもたちや保護者が興味深く見ていた。



日記や行事
後の感想、道
徳の授業の結
末に記入した
振り返り等。
(学校生活に
関するもの)

新開・わたしたちの道徳・
絵本などの関連内容。

学校で...

柁城小



道徳性が育まれる 給良市の子どもたち

学校・家庭・地域での様々な取組を集めてみました。

ふるさとを知り、ふるさとを誇りに思う子どもに



西浦小

地域で...



自然豊かな西浦校区には、校区の入り口にある神社に大きなイチヨウの木がある。このイチヨウの木は、校区のシンボルのようになっている。
秋には神社の庭が黄色の絨毯で敷き詰められたようになる。毎年この時期に子どもたちは掃除に行きふるさとを大切にすることを学んでいる。
掛橋坂という石畳の道がある。龍門司坂や白銀坂と並んで、給良市の貴重な史跡でもある。物資を運ぶために通る道として作られ、利用された。重機などの機械がない時代に作られた建造物。
遠足で訪れ実際に歩いてみて、昔の人の苦労を忍ぶとともに、このような素晴らしい史跡のあるふるさとを誇りに思う子どもに育って欲しい。

③ ふるさとを愛し、ふるさとに学ぶわたしたち

みんなのまちだから

わたしたちに
できること。



山田中

地域との連携 ～農業体験学習～



新聞でも紹介されました。

地域で行われている「山田の里かし祭り」にも、地域の方々とののかわりの中、毎年参加している。

給良市役所農政課の協力の下、校区に住む方に、田んぼの提供や期間中の手入れをボランティアで協力していただき、今年で20回目を迎えた。
6月に田植え、8月に除草、10月に稲刈りを体験して農業の楽しさや大変さを学んだ。米迫さんに農業についての思いなどをお話ししていただいた上で活動に取り組み、意欲の向上や学習の深まりがみられるようになった。

実践への意欲化をねらって：学校主事さんの説話

西給良小



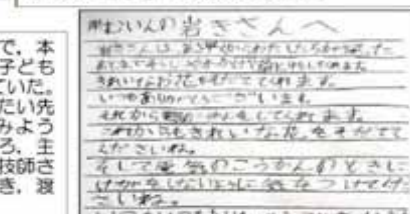
- 学年 第2学年
- 主事名 いつもありがとう
(内容項目4- (4) 愛校心)
- 資料名 「くろいわのおじさん」(学研)

具体的な働きかけ

広げる段階(授業の終末)で、主事さんにお話をいただいた。普段、どのような仕事をしているかを話された後、「みんなの笑顔に力。お仕事をがんばっています。だから、意地悪やけんかをしないで仲良く過ごしてほしいです。」と締めくくられた。

子どもの反応

資料に主事さんが出てきていたので、本校の主事さんが来てくれただけで、子どもたちは喜び、笑顔でお話を聞いていた。
また、「ありがとうの思いを伝えたい先生はいませんか。お手紙を書いてみようか。」とその日の宿題に出したところ、主事さんだけでなく、養護教諭や給食技師さん、図書室の先生などにお手紙を書き、渡すことができた。



市民の皆さんからの投稿も大歓迎です。
「家庭でこんなことに取り組んでいるよ。」「地域でこんな子どもたちのよい姿を見たよ。」という情報をどしどしお寄せください。

重富中



家庭で...

情報の提供先

給良市教育委員会
学校教育課教育指導係
メール shido@city.aira.lg.jp
TEL 0995-62-2111
(内線 215)
住所 給良市加治木町本町 253 番地

ルールやマナー マナー日本一への挑戦



帖佐中

本校では、全校生徒の4割程度が自転車通学生であり、300名を超える自転車通学生が毎日登下校しているが、学校周辺の歩道は狭く、拡張工事の見通しも立たない状況である。そのため、生徒の行動の如何によっては地域の方々の迷惑になるばかりではなく、大きな事故にもつながりかねない危険性をはらんでいる。
写真は、毎年年度始めに実施する交通安全教室後の下校指導の様子であり、自転車に乗ってよい範囲や押して歩く場所、信号を待つ場所など、細かく規定してあるルールを現地で確認している。
このようなルールやマナーを守る態度は、毎年下級生に引き継がれており、これまで命に関わるような大きな事故の発生はない。地域の方々からも「横断歩道では自転車を降りて押して渡る姿が素晴らしい。」「一列になって通学し、ヘルメットも全員が付けていて感心します。」など、ありがたい声が聞かれる。
今後も事故防止とともにマナー日本一を目指し、指導を徹底していきたい。中学生がいずれは自動車を運転するドライバーになるのだから。

② 生かされていることに感謝するわたしたち

ありがとう



照れながらも大切に赤ちゃんを授け男子生徒
この機会に保護者に手紙を書いてもらいました。

14年前、心身共に苦しい思いをしながら、〇〇を産みました。現在まで本当にあなたがいてくれて幸せです。
(中略)〇〇の何事にも前向きにチャレンジする姿が大好きです。〇〇は私の自慢の娘です。何が何でも、私は〇〇の応援団長です。ずっとずっと応援し続けるからね。

「生命の尊さについて考える」～命のふれあい教室～

中学生期は、自我の芽生えとともに、家族の愛情不足を感じたり、自分の存在について否定的に捉えたりすること少なくない。本校では、「命のふれあい教室」に合わせて「生命の尊さ」について道徳の授業を行い、その後「命のふれあい教室」を実施することで、一層道徳的実践力の育成を図っている。
「命のふれあい教室」は、給良市の時代から、行われてきた取組である。保健師・助産師の方々が直接生徒に、生命の誕生や出産について、本の読み聞かせやスライドを用いて話したり、妊婦体験や赤ちゃんの抱き方体験等を行ったりして、「命の尊さ」について考え、自己肯定感を高め、自他の生命を大切にすることと態度を養っている。

(女子生徒の感想) 私が4年生の時に、お母さんのお腹の中に赤ちゃん(弟)がいました。その時、お母さんは毎日とても大変そうでした。なので、この学習を通して、改めて妊婦さんの気持ちや生命誕生の素晴らしさを知ることができました。これからは妊婦さんを見かけたら、電車で席を譲ったり、お手伝いできることはないか、気持ちを考えたりしながら生活したいと思いました。

ルールやマナーを育てるための家庭の取組 ～家庭教育学級でのアンケート～

- ゲームの使用時間を決める。ゲーム類は買わない。(週末で勉強した時だけ、夜7時まで。宿題が終わってから1日30分、1日1時間以内など)
- 交通マナーの徹底。公共のマナーを身に付けるため公共交通機関を利用する。
- お小遣いは手伝いに応じて金額をかえる。(例：洗濯たみ 10円など)～欲しい物は自分で貯めさせる。
- 食事を家族一緒にとる。(テレビを消す。互いの様子(学校のこと)を知る。会話をし合う など)
- 「飽かざる者食うべからず。」自分の事をやってから夕食を食べる。自分の食器は自分で片付ける。
- 話したくないことは黙っていても良いが、うそはダメと言うことを伝えていく。
- 返事は0.2秒！(いやいやするのはよくない。気持ちよくしてほしい。)
- 靴を並べる。(靴がぐちゃぐちゃでは色んなことがだらしくなる。)
- 家に居る人は、次に帰ってくる人のスリッパを玄関に並べておく。(スリッパでお帰らない。父親が早く会えない時も「お帰らない」の気持ちで伝える。父の存在をいつも感じる。など)
- 乱暴な言葉づかいはいらない。人の心を傷つけない。
- 優先順位を考える。時計を見て行動するようにしているが、自主的に動くのは難しい。

④ ルールやマナーを守るわたしたち

ルールを守って、安心・安全。



家庭で決めたルールを守ろう!

建昌小

実践協力校による実践発表会が行われました。

毎年度、小学校1校、中学校隔年度1校を実践協力校として、学校を中心とし、家庭・地域と連携した道徳教育の充実への取組を実践するとともに、その成果を実践発表会として公開しています。

この発表会には、学校関係者、保護者、地域住民、行政関係者が参加し、子どもたちの道徳性を育むために、実践発表校において学校・家庭・地域が協働してどのように取り組んできたかを紹介したり、これからどのように取り組んでいくかを話し合ったりしています。

平成24年度は蒲生小学校と加治木中学校、平成25年度は重富小学校、そして本年度は、山田中学校と北山小学校が実践発表会を行いました。

山田中学校

テーマ

豊かな心と適切な判断力を身に付け、主体的に行動する生徒の育成

～モラリティ・インブルーメントの取組を通して～

取組の概要

学校における道徳の時間の指導法改善に向け、指導内容の重点化や教師の指導力向上等に取り組むとともに、生徒の実態や学校の情報地域や家庭に積極的に発信したり、家庭教育学級や親父の会、地域の人材活用を図ったりすることによって、三者連携を深めていく取組を行いました。



2年生では、「誇りある生き方」を主題にした授業を公開しました。

中学校で取り組んでいるティームティーチングによる指導や心情グラフによる心の動きの可視化などを取り入れた授業を展開しました。

1年生は、「よりよく生きる」を主題に、卒業生の作文を資料とした授業を公開しました。

1年生でもティームティーチングを中心としながら、グループを作って生徒同士による協議も行い、主体的に学んでいく授業を展開しました。



グループに分かれてのワークショップ型意見交換会を実施しました。

「生徒の自立」をテーマに、学校・家庭・地域において協働してどのようなことが取り組めるか、そのための課題は何かについて話し合いました。



北山小学校

テーマ

学校・家庭・地域の連携を通して、道徳的価値の自覚を深め、自己の生き方について考える子どもの育成

～小規模校における「道徳タイム」の取組～

取組の概要

特色ある教育活動等における児童の実態などを踏まえ、道徳性に関する身近な課題を取り上げ、時に家庭や地域の協力を得ながら、「よりよい自分、なりたい自分」を目指して、発達段階に応じた道徳的価値の追究、道徳実践力の向上を目指し、全校児童で行う「道徳タイム」に取り組みました。



1年生から6年生までが、同じテーマについて、それぞれの発達段階に応じた追究の仕方考えを深め、最後にお互いの考えをシェアし合うことで思いや考えを共有するという小規模校ならではの新しい授業スタイルを公開しました。

学校・家庭・地域のグループに分かれ、子どものどのような道徳性を育てていくことが大切なのかについて、「あいさつ」を中心のテーマとして協議しました。

市内の各小・中学校の先生方はもちろんのこと、家庭・



地域の方々にも多数参加していただき、活発な意見交換が行われました。

参加された家庭・地域の方からは、「学校・家庭・地域それぞれの立場での考えを聞くことのできる貴重な機会だった。」という意見をいただきました。

来年度は加治木小学校で実践発表会を実施します!!

平成27年度は、加治木小学校を実践協力校として実践発表会を実施します。

加治木小学校の保護者の方々、加治木小学校校区の地域の方々はもちろん、他の学校・校区の保護者・地域の方々も大歓迎です。

是非、一度参加されてみてください。

最後に...

今後も、学校・家庭・地域による様々な連携・協働の中で、子どもたちの道徳性を更に育てていくために継続的な取組と新たな取組を推進していきます。

学校・家庭・地域における様々な取組へ御注目いただくとともに、御協力をお願いいたします。

平成26年度始良市MIM委員

- | | |
|--|------------------------|
| ○横山浩彦 (幼稚園代表・建昌幼稚園長) | ○佐藤秀正 (小学校代表・柁城小学校長) |
| ○草留久之 (小学校代表・重富小学校教頭) | ○清水哲也 (中学校代表・蒲生中学校長) |
| ○野村義文 (高等学校代表・加治木高校教頭) | ○終原美恵 (地域子育て有識者) |
| ○馬場修二 (PTA代表・加治木中PTA会長) | ○川畑 暁 (PTA代表・帖佐小PTA会長) |
| ○モラリティ・インブルーメント・ミーティング事務局 (始良市教育委員会学校教育課教育指導係) | |